

「もういちど読む山川世界史」山川出版社 2009年8月30日刊を読む

ふたたび世界史を学ぶ読者へ

1. テレビや新聞などのマスメディアでは世界各地の政治・経済・社会・文化のニュースが毎日報道されています。ソ連・東欧の社会主義圏が消滅したあと、市場経済が世界を席卷しましたが、21世紀初頭にはアメリカに端を発する世界的金融危機が発生して、アメリカ極主義は破綻をみせ、民族や宗教にかかわる紛争もたえまなく続いています。大量生産・大量消費の生活が、環境に対する負荷を増大させています。発展途上国の人口は爆発的に増加し、飢餓の問題が進行している一方で、先進国では少子化対策が急務となっています。芸術や学問分野でも新しい才能がつぎつぎとあらわれ、新しい技術や学説が登場しています。世界は動いているのです。これからもまちがいに動いていくでしょう。しかし、いったいどこに向かっているのかは不明瞭です。

2. 毎日の仕事に忙殺されている生活のなかでは、ゆっくり時間をかけて世界のみちすじを考えることはなかなかできません。ほんらい初等教育から高等教育までの学校教育が、これらを学び、思索する時期にあたっているのですが、現実の仕事を含めたさまざまな状況や問題を経験していない生徒・学生たちの学ぶ視点にはおのずから限界があり、受け身の場合が多いのではないのでしょうか。むしろ、仕事に全力を尽くした日々が一段落した人、いま現実の社会に立ち向かっている人、これから新しい道を歩もうとする人のほうが、問題意識をもち、鋭い思索の切り口をもっているはずです。いったん立ち止まって過去を振り返り、その成果や問題点を整理し、将来の見取り図を描いてみることは決して無駄な作業ではないと思われます。

3. 本書は以前教科書として使われていた『世界の歴史(改訂版)』をベースにしていますが、一般の読者を対象として記述を見直し、時代に即応した簡潔かつ明確なかたちに改めました。さらに、現代の理解の手助けになるようなテーマを選択してコラムとし、解説を加えています。誰にでも読みやすく、1冊で世界史の全体像を把握できる書物です。日々のニュースの背景がよくわかるようになるはずです。本書が歴史のみちすじの理解と、将来像の構築の一助となることを願っています。

[コメント]

グローバル化が進む世界を考える際に、高校レベルの世界史の知識を確実に身につけることは必要不可欠。昨年度刊の日本史に続く山川出版の快挙ともいえる出版。古典や漢文、物理・科学・生物・地学などの理科、地理・倫理社会、英文法や英作文、数学なども各教科書出版社は大人版、社会人版をどんどん出して欲しい。

- 2009年10月11日 林明夫記 -